



笑顔であいさつできる児童の育成

校長 関根 弘

今月は、年度始めの保護者会資料に書かせていただいた「心の力」の中の「笑顔であいさつできる児童の育成」についてお伝えします。

私は、右のポスターを使い、事あるごとにあいさつの大切さ・良さを伝え続けています。ところが最近、全員集まったときにみんなであいさつをすることはできるのですが、コロナ禍でマスクをすることが習慣になってから、個々にあいさつをする児童が少なくなってきたことを感じていました。そこで、全校朝会で以下のような話をしました。



1学期が始まり、もうすぐ2ヶ月になります。校長先生が、朝、校門の前に立っていると、いろいろなあいさつの形が見られます。

- ①大きな声で自分からあいさつをしてくれる人
- ②こちらからあいさつをすると、元気にあいさつを返してくれる人
- ③こちらがあいさつすると、会釈(おじぎ)のみで返してくれる人
- ④こちらがあいさつしてもだまって通り過ぎる人

①②のあいさつは、とても気持ちよく、うれしく思います。

③のあいさつは、はずかしいのかな、体の調子が悪いのかな、とちょっと心配になります。

④は、無視されたような気持ちになります。

みなさんは、①～④のどれに自分は当てはまると思われますか。

～ 途中省略 ～

あいさつをすると、自分を元気にすることができます。また、まわりの人も元気にすることができます。そして、優しい気持ちになれます。さらに、みんなが仲良くなれます。

このように、あいさつには「魔法の力」があるのです。

今は、マスクをしているので自分ではあいさつをしているつもりでも相手に伝わらないこともあるでしょう。でも、これからは、マスクをしていても相手に聞こえるように、また、相手の顔を見て、笑顔であいさつができるといいなあ、と思います。

学校内で、先生や友達のお父さんやお母さん、さらに、学校に来たお客さんとすれ違うときも「こんにちは」など、気持ちのよいあいさつができるといいですね。交通指導員さんにも「おはようございます。」「さようなら」とあいさつができるといいですね。今日から、少し意識して **笑顔で、相手に聞こえるように** あいさつをしてみてください。そして、あいさつの気持ちの良さをお互いに感じてほしいと思います。

この話をした後、進んであいさつをする子供たちが確実に増えてきています。私は、あいさつのできる子供たちから毎日、元気をもらっています。私もあいさつをしつつ、「いいあいさつですね」「元気なあいさつですね」などの声もかけるようにしています。

各学級でも、「笑顔であいさつできる児童の育成」に向けて、児童の実態に応じた様々な取組をしています。

さらに、代表委員会でも「富士見台小学校のみんなが、楽しみながら進んであいさつができるようになってほしい。」という願いから、6月28日の全校朝会で全校児童に向けて「あいさつ劇」の発表を行いました。さらに、「あいさつ世界一周すごろく」カードを代表委員会児童が作成・配布し、現在、そのカードを使いながら、全校児童が楽しみながらあいさつ運動に取り組んでいます。

各学級でどの様な取組をしているのか、「あいさつ世界一周すごろく」とはどんなものなのか、子供たちからお聞きください。また、各ご家庭におかれましてもあいさつのことを話題にしてご指導ください。

学校と家庭、地域が一体となって「笑顔であいさつできる児童」を育成したいと考えております。ご理解とご協力をお願いいたします。